

平安京右京三条四坊十三町跡

2004年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京右京三条四坊十三町跡

2004年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都には数多くの有形無形の文化財が今も生きています。それら各々の歴史は長く多岐にわたり、京都の文化の重厚さを物語っています。こうした中、地中に埋もれた文化財（遺跡）は今は失われた京都の姿を浮かび上がらせてくれます。それは、平安京建設以来1200年以上にわたる都市の営みやその周りに広がる姿をも再現してくれます。一つ一つの発掘調査からわかってくる事実もさることながら、その積み重ねによってより広範囲な地域の動向も理解できることにつながります。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、こうした成果を現地説明会や写真展、考古資料館での展示、ホームページでの情報発信などを通じて広く公開することで市民の皆様へ京都の歴史像をより実態的に理解していただけるよう取り組んでいます。また、小学校などでの地域学習への成果の活用も、遺物の展示や体験授業を通じて実施しています。今後、さらに埋蔵文化財の発掘調査成果の活用をはかっていきたいと願っています。

研究所では、平成13年度より一つ一つの発掘調査について報告書を発刊し、その成果を公開しています。調査面積が十数平方メートルから、数千平方メートルにおよぶ大規模調査までありますが、こうした報告書の積み重ねによって各地域の歴史がより広く深く理解できることとなります。

このたび道路改築工事に伴う平安京跡の発掘調査成果を報告いたします。本報告書の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示たまわりますようお願い申し上げます。

末尾ではありますが、当調査に際して御協力と御支援をたまわりました多くの関係者各位に厚くお礼と感謝を申し上げます。

平成16年3月

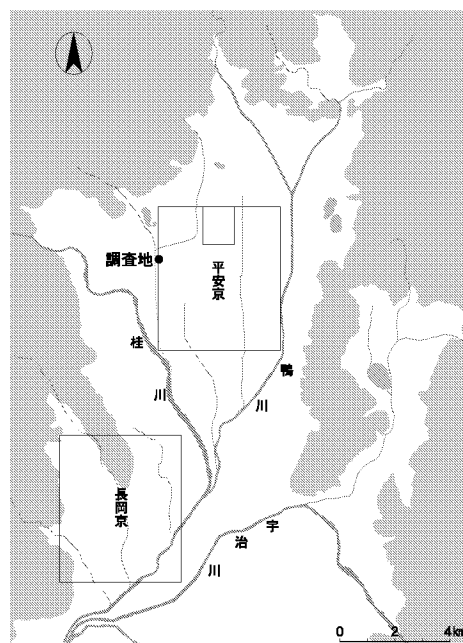
財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 川 上 貢

例 言

- 1 遺 跡 名 平安京右京三条四坊十三町跡
- 2 調査所在地 京都市右京区山ノ内西八反田町
- 3 委 託 者 京都市 代表者 京都市長 榊本頼兼
- 4 調査期間 2003年10月6日～2004年1月21日
- 5 調査面積 約900m²
- 6 調査担当者 能芝 勉・太田吉男・モンペティ恭代
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「山ノ内」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 日本測地系（改正前）平面直角座標系（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用基準点 京都市が設置した京都市遺跡測量基準点（一級基準点）を使用した。
- 11 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 12 遺 構 番 号 調査区ごとに通し番号を付し、遺構種類を前に付けた。
- 13 遺 物 番 号 挿図の順に番号を付した
- 14 掲 載 写 真 村井伸也・幸明綾子
- 15 基準点測量 宮原健吾
- 16 遺 物 復 元 村上 勉・出水みゆき
- 17 本書作成 能芝 勉・モンペティ恭代
- 18 編集・調整 児玉光世・清藤玲子

（調査地点図）



目 次

1. 調査経過	1
2. 周辺の調査	1
3. 遺 構	4
(1) 1区	4
(2) 2区	8
4. 遺 物	9
(1) 1区	9
(2) 2区	10
5. ま と め	11

図 版 目 次

図版 1	遺構	1	1区全景(北から)
		2	1区溝28(北西から)
図版 2	遺構	1	2区全景(北東から)
		2	2区溝51~53(北西から)
図版 3	遺物	1・2区	出土遺物

挿 図 目 次

図 1	1区調査前全景(北から)	1
図 2	調査位置図および周辺調査(1:5,000)	2
図 3	1区遺構平面図(1:200)	5
図 4	2区遺構平面図(1:200)	6
図 5	1・2区東壁断面図(1:100)	7
図 6	1区溝28実測図(1:50)	8
図 7	木製品取り上げ作業	9
図 8	石斧実測図(1:4)	10

図9	1・2区古墳時代流路出土土器実測図(1:4)	10
図10	1・2区湿地状遺構出土土器実測図(1:4)	11

表 目 次

表1	周辺の調査一覧表	3
表2	遺構概要表	4
表3	遺物概要表	10

平安京右京三条四坊十三町跡

1 . 調査経過

葛野大路道路改築事業に伴い、現在の三条通以北の京都市右京区山ノ内西八反田町において、発掘調査を実施した。葛野大路改築に伴う発掘調査は1988年から継続して行われており、今回の調査は11次にあたる。

調査区は平安京右京三条四坊十三町、および無差小路に該当し、『拾芥抄』右京図によれば、織部司の厨家である織部町にあたる。今回の調査地に隣接する既調査では平安時代前期の建物



図1 1区調査前全景（北から）

跡、三条大路の路面・北側溝などを検出している。また、平安京以前の周辺遺跡として山ノ内遺跡や西ノ京遺跡があり、御池通以北の調査で弥生時代から古墳時代の遺物を検出し、三条通以南の調査では弥生時代の遺構と古墳時代の竪穴住居を検出している。本調査でも平安時代の遺構とともに、弥生時代、古墳時代の遺構の検出も期待した。

調査区は葛野大路と三条通の交差点から北へ約100mに位置する西高瀬川の南側に設定した。調査対象地は耕作地と昭和41年山ノ内浄水場建設の際、それより約2m嵩上げされた地域とに跨っている。耕作のための水路と通路を確保するため、盛土部分を1区、耕作地を2区とし、2回に分けて調査を行った。調査は2003年10月6日から1区調査を開始し、2004年1月21日に2区の調査を終了した。

2 . 周辺の調査

今回の調査区に比較的近い調査事例の成果を概述しておく。

北側の調査には、9次調査の2・3区がある¹⁾。現在の西高瀬川を挟んで北側に位置する。比較的遺構密度が薄く、中・近世の耕作に伴う溝などが中心である。出土遺物は、鎌倉時代から江戸時代のもを主体に弥生時代、古墳時代、平安時代のもを少量含んでいる。

南側に隣接する調査には、8次調査の1区がある。平安時代前期の三条大路北側溝・路面・建物跡、近世末から近代の瓦窯（だるま窯）などを検出している²⁾。また、三条通の南には、7次調査、9次調査の1区、10次調査などがある。そのうち10次調査の10区では古墳時代中期の竪穴住居跡をはじめ、弥生時代の遺構・遺物を検出しており、山ノ内遺跡の範囲外にも遺跡が広く展開していることを確認した³⁾。

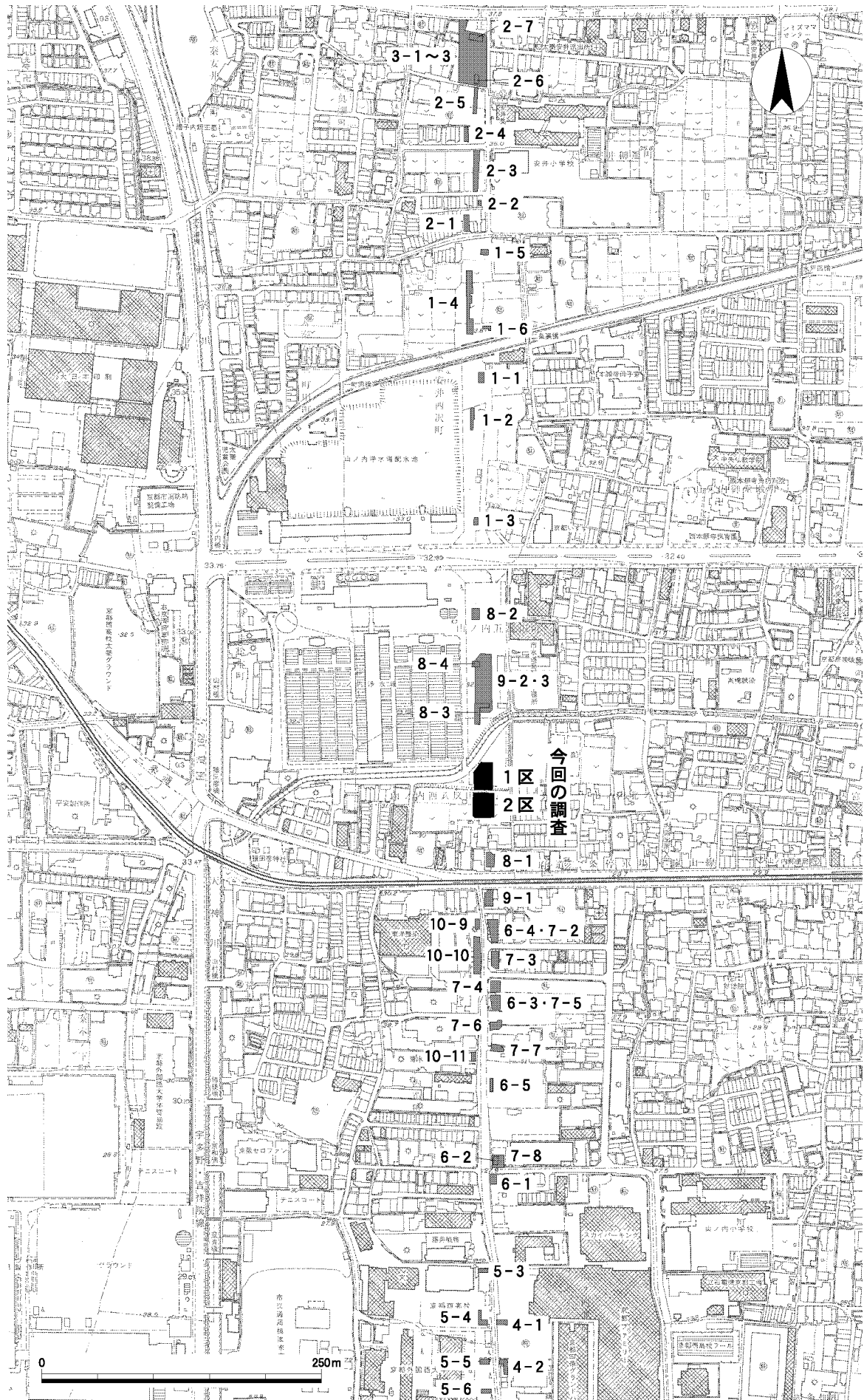


図2 調査位置図および周辺調査 (1 : 5,000)

表1 周辺の調査一覧表

調査区	年度	調査法	条坊	主な遺構	
1次	1-1	1988	試掘	右京三条四坊十六町	古墳の自然流路、室町～江戸の耕作溝
	1-2	1988	試掘	右京三条四坊十六町、押小路	平安の押小路東西両側溝、室町～江戸の耕作溝
	1-3	1988	試掘	右京三条四坊十五町	室町～江戸の耕作溝
	1-4	1988	試掘	右京三条四坊十六町、二条大路	古墳の自然流路、平安の二条大路路面、室町～江戸の耕作溝
	1-5	1988	試掘	二条大路	古墳の自然流路、室町～江戸の耕作溝
	1-6	1988	試掘	右京三条四坊十六町	古墳の自然流路、室町～江戸の耕作溝
2次	2-1	1989	発掘	右京二条四坊十三町、二条大路	室町～江戸の耕作溝
	2-2	1989	発掘	右京二条四坊十三町	室町～江戸の耕作溝
	2-3	1989	発掘	右京二条四坊十三町	平安以前の足跡状遺構、室町～江戸の耕作溝
	2-4	1989	発掘	右京二条四坊十三町	平安以前の足跡状遺構、室町～江戸の耕作溝
	2-5	1989	発掘	右京二条四坊十三町、冷泉小路	平安以前の足跡状遺構、鎌倉の冷泉小路北側溝、室町～江戸の耕作溝
	2-6	1989	発掘	右京二条四坊十四町、冷泉小路	平安前～中期の冷泉小路北側溝・柱穴列、平安末期～鎌倉の土壇状遺構、室町～江戸の耕作溝
	2-7	1989	発掘	右京二条四坊十四町	古墳の土壇状遺構、平安以前の足跡状遺構、室町～江戸の耕作溝
3次	3-1 ～3	1991	発掘	右京二条四坊十四町、冷泉小路	平安前期の冷泉小路北側溝、平安後期の柱穴群・土壇、室町の耕作溝、江戸以降の溝・井戸・土壇・柱穴
4次	4-1	1995	試掘	右京四坊四条十三町、錦小路・無差小路交差点内	室町後半の濠、室町以降の流路、江戸以降の耕作溝
	4-2	1995	試掘	右京四坊四条十三町、無差小路	4-1と同じ
5次	5-3	1996	試掘	右京四条四坊十四町	古墳～室町後半の流路、室町後半の水田、江戸以降の水田
	5-4	1996	試掘	右京四条四坊十三町・十四町、錦小路	古墳～室町後半の流路、江戸以降の水田
	5-5	1996	試掘	右京四条四坊十三町	室町後半の土壇、江戸以降の水田
	5-6	1996	試掘	右京四条四坊十三町	平安前期包含層、室町後半の土壇、江戸以降の土壇・水田
6次	6-1	2000	試掘	右京四条四坊十四町	時期不明の流路
	6-2	2000	試掘	右京四条四坊十五町、無差小路・四条坊門小路交差点内	古墳の流路、平安前期の包含層
	6-3	2000	試掘	右京四条四坊十六町、無差小路	平安前期の無差小路西側溝・土壇、室町～江戸の耕作溝
	6-4	2000	試掘	右京四条四坊十六町、無差小路	平安の土壇、江戸以降の耕作溝
	6-5	2000	試掘	右京四条四坊十五町	平安の土器を含む湿地状堆積
7次	7-2	2001	発掘	右京四条四坊十六町、無差小路	古墳前期の包含層、平安前期の無差小路西側溝・建物跡2棟・土壇
	7-3	2001	発掘	右京四条四坊十六町、無差小路	古墳前期の包含層・水溜状遺構、平安前期の南北溝・流路状遺構、近世以降の耕作溝
	7-4	2001	発掘	右京四条四坊十六町、無差小路	平安前期の南北溝、近世以降の耕作溝・南北方向柵列
	7-5	2001	発掘	右京四条四坊十六町、無差小路	古墳前期の包含層、平安前期の南北溝・建物跡2棟・南北方向柵列、近世以降の杭列・耕作溝
	7-6	2001	発掘	六角小路・無差小路交差点内	近世～現代の溝・堀跡
	7-7	2001	発掘	右京四条四坊十五町、無差小路	平安前期の不明土壇、近世以降の耕作溝
	7-8	2001	発掘	右京四条四坊十五町、無差小路・四条坊門小路交差点内	古墳前期～中世以降の自然流路、平安前期の包含層
	8次	8-1	2001	発掘	右京三条四坊十三町、三条大路
8-2	2001	試掘	右京三条四坊十四町、姉小路	鎌倉～室町の耕作溝、室町の小穴	
8-3	2001	試掘	右京三条四坊十四町	平安の包含層、鎌倉～室町の耕作溝	
8-4	2001	試掘	右京三条四坊十四町	平安の溝・柱穴、鎌倉～室町の耕作溝	
9次	9-1	2002	発掘	右京四条四坊十六町	平安の土壇・柱穴、近世以降の土取り穴
	9-2 .3	2002	発掘	右京三条四坊十四町	平安の柱穴、鎌倉～近世以降の耕作溝多数
10次	10-9	2002	発掘	右京四条四坊十六町	近・現代の土取穴
	10-10	2002	発掘	右京四条四坊十六町	弥生の土壇・柱穴、古墳の竪穴住居、平安の溝・柱穴、中・近世の土壇・溝
	10-11	2002	発掘	右京四条四坊十五町	江戸以降の溝・小穴

3. 遺 構

(1) 1区 (図3・5、図版1)

基本層序は表土下約2.0mまで盛土で、以下に約30cm程度の2層からなる耕土があり、以下は黄褐色粘土層の地山となる。各時代の遺構は、いずれも耕作土直下の地山面で検出した。検出した遺構は古墳時代の溝、平安時代末期から鎌倉時代以降の湿地状遺構と、江戸時代末期から近代初頭の耕作溝である。以下に主な遺構の概要を述べる。

古墳時代

調査区の南西隅で溝28 (図6) を検出した。幅1.2~2.0、深さ10~30cmを測り、埋土は上層が黄褐色砂礫、下層が褐色粗砂で部分的に暗褐色泥砂層の滞留箇所が認められた。検出した溝底部の標高は西側がやや高いため、北西から南東方向へ流れる自然流路と推定される。出土遺物は下層上面に集中しており、須恵器の杯蓋、土師器の甕・高杯、木製品などがある。6世紀前半代のものである。

平安時代から中世

調査区の中央部を北東から南西に横断する湿地状遺構25を検出した。最大幅約13、最深部で約50cmを測る。埋土は黒色泥土の単一層であり、広く湿地状を呈していた。出土遺物は極端に少なく、12世紀後半以降と推定される土師器の小片と輸入白磁、焼締陶器 (常滑産) などがある。

江戸時代から明治時代

調査区の中央を南北に縦断する溝1と多数の耕作に伴う南北、および東西方向の溝などがある。溝1は幅1.5~2.0、深さ約40cmを測る。埋土は上層が黒褐色泥土、下層が黒褐色砂泥で2~5cmの小礫を多量に混入することから、一定の水量を伴う水利施設であったものと推定できる。調査区北端の西に屈曲するところでは、両側に柱の転用材により護岸された箇所があり、その裏込埋土から江戸時代末期もしくは明治時代初期の京・信楽系陶器類の小片が出土している。その他の耕作溝は2層ある耕土に対応しており、概ね東西方向の溝が下層、南北方向の溝が上層の耕土に伴うものである。

表2 遺構概要表

時 代	遺 構	
	1 区	2 区
古墳時代	溝28	溝51~53、土壙56・57
平安時代~中世	湿地状遺構25・27	湿地状遺構40
江戸時代末~明治時代	溝1~10、土壙	溝10・25・39、土壙16

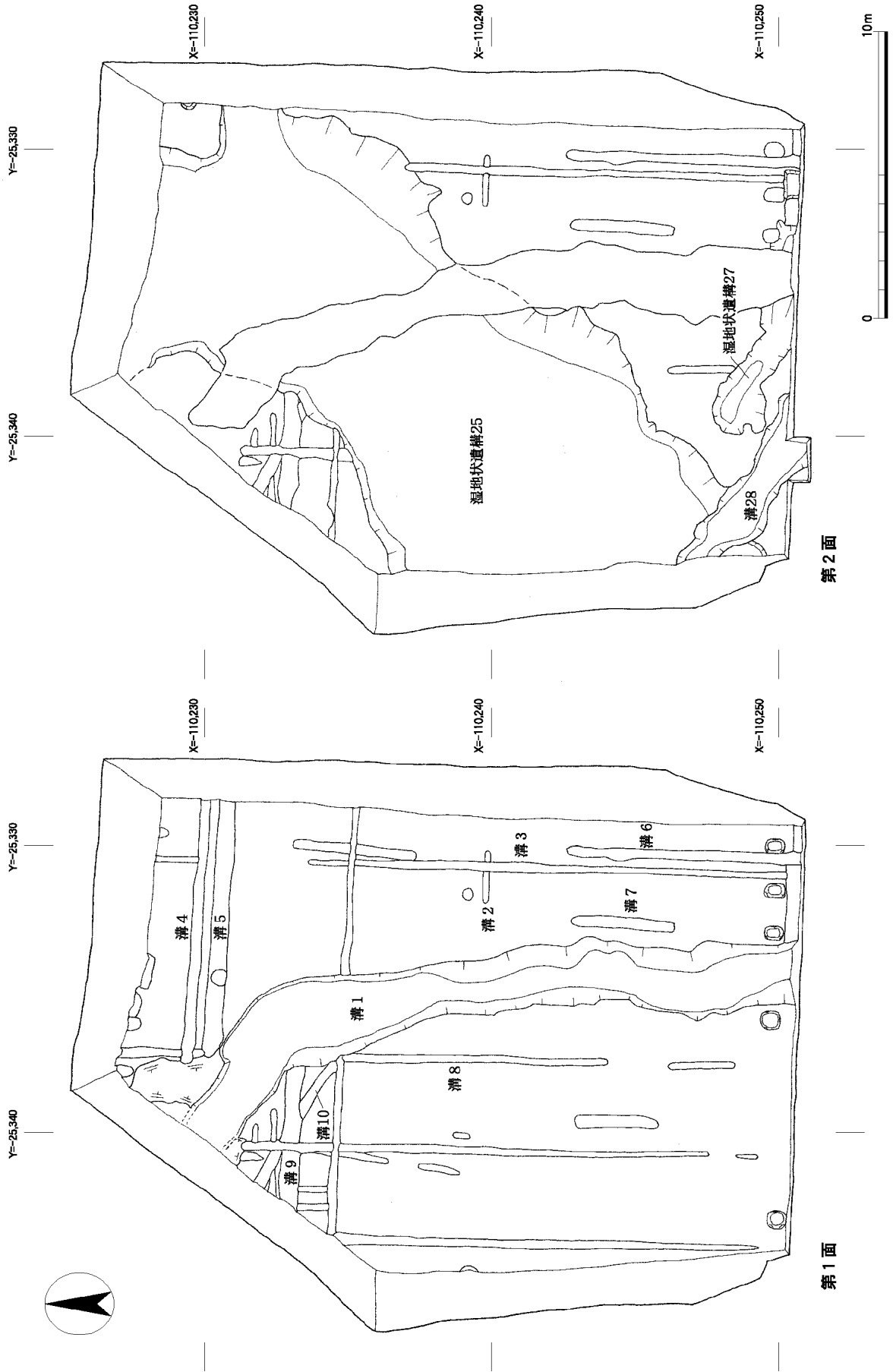
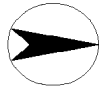
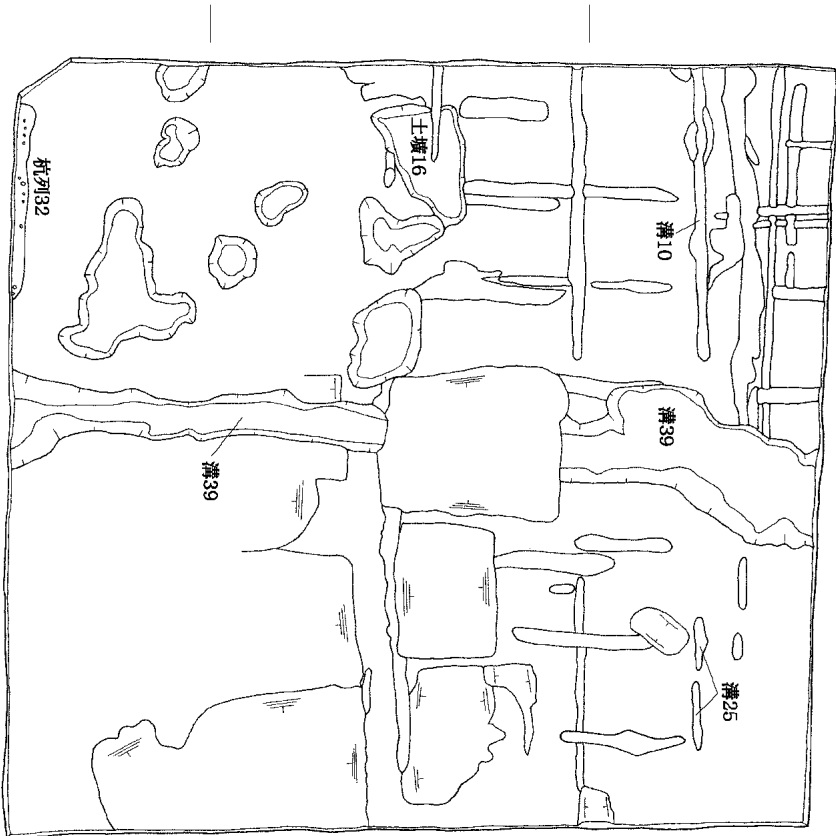


图3 1区遺構平面图(1:200)



Y=25,340

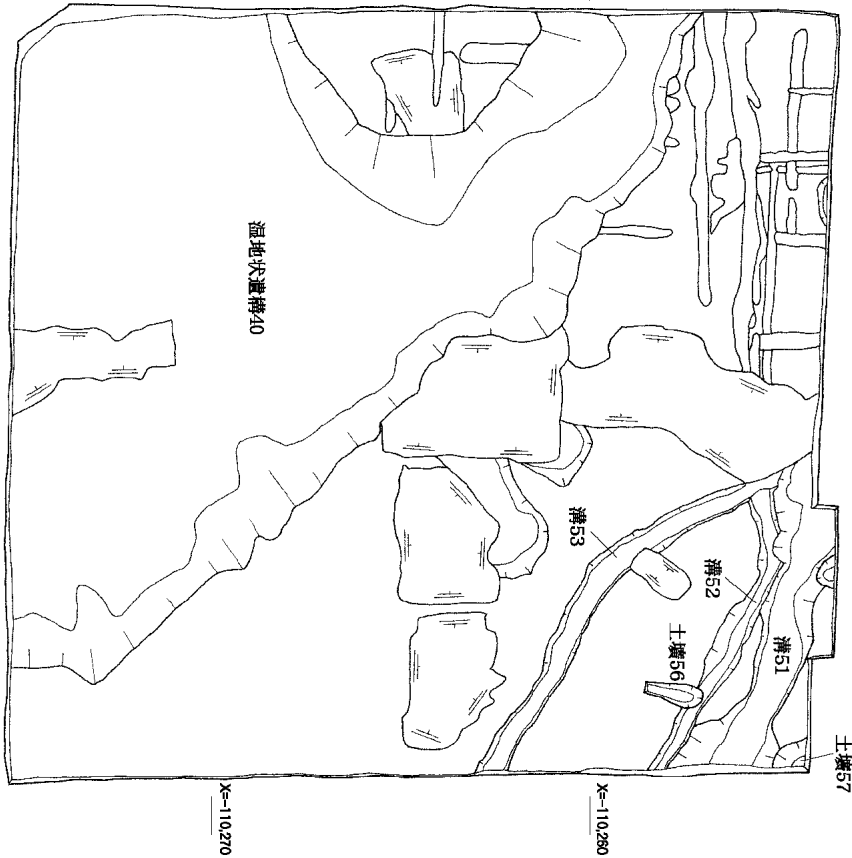
Y=25,330



第1面

Y=25,340

Y=25,330



第2面



図4 2区遺構平面図(1:200)

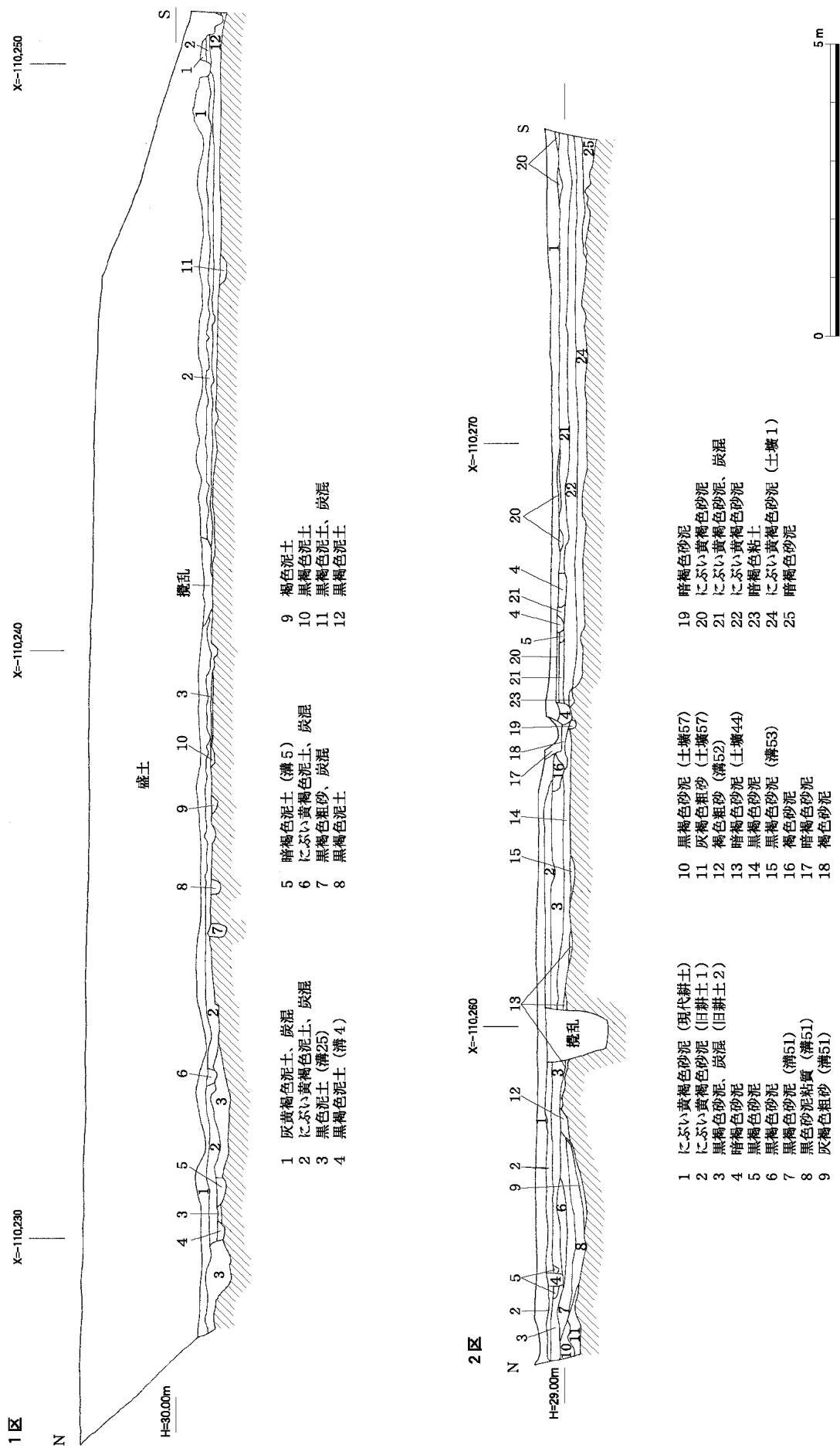


図5 1・2区東壁断面図(1:100)

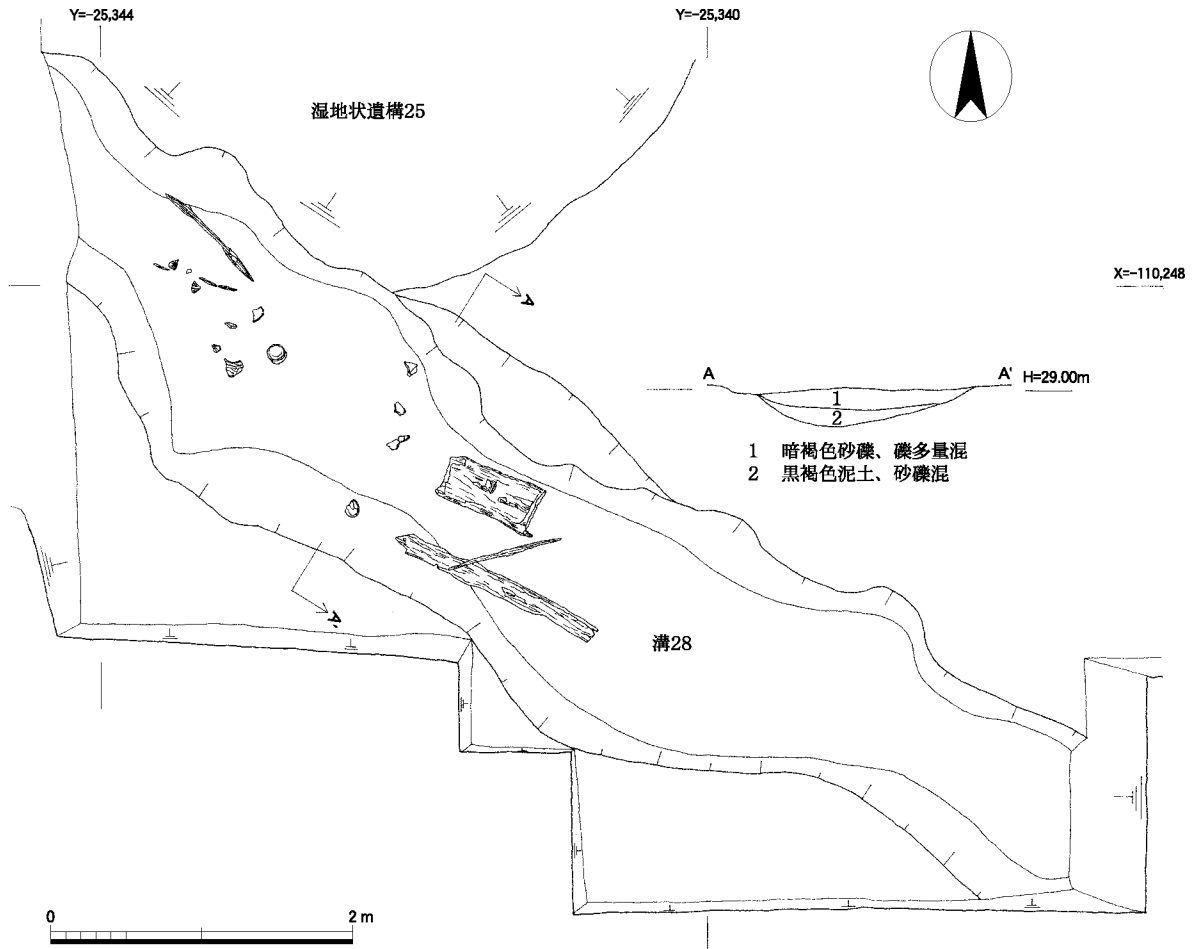


図6 1区溝28実測図(1:50)

(2) 2区(図4・5、図版2)

基本層序は1区の盛土部を除いてほぼ同じで、調査前まで使用されていた現耕土の直下に2層の耕土があり、その下は黄褐色粘土層の地山となる。検出した遺構は1区と同じくこの地山層の上面である。古墳時代の遺構としては、1区から続く溝のほか、土壙56・57などがある。平安時代の遺構はこれも1区に連なると推定される湿地状遺構がある。その他は江戸時代末期から明治時代以降の耕作に伴う溝、土取穴などがある。

古墳時代

古墳時代の遺構は調査区の北東部に集中して検出した。溝51・52は1区の溝28の延長部である。溝51は幅約2.0、深さ20~30cmを測る。埋土は上層が黄褐色砂礫、下層が褐色粗砂である。溝52は幅は約1.5、深さは最も深い所で約10cm程度である。埋土は褐色粗砂である。溝51と溝52の出土遺物に時代差はなく、ほぼ同時期の自然流路と考えられる。6世紀前半代の土師器甕・高杯が少量出土した。溝53は調査区北中央部から東壁にかけて緩やかな円弧状になる溝で、北端では溝51・52を切る。幅0.6~0.7、深さ約20cmで、断面形がほぼ逆台形で一定しており人工的に掘られた溝と推定される。埋土は黒褐色砂泥の単一層である。出土遺物が極端に少なく、時期・性格などは不明である。古墳時代の遺構としては、その他に土壙56・57などを検出している。土

墳56は長軸約1.5、短軸約0.6の楕円形を呈し、深さは約10cmである。埋土は褐色泥砂で、同一個体と思われる土師器甕の小片を多く含む。その他の土壌からは、目立った遺物は出土していない。

平安時代から中世

調査区の北西端から南東端にかけて、湿地状遺構40を検出した。調査区のほぼ1/2の面積を占めており、最深部では約1.0ある。南東部にかけて浅くなる。埋土は上層部が黒色粘土で、下層はにぶい黄褐色砂礫である。1区で検出した湿地状遺構25に続くものと推定する。出土遺物は平安時代の須恵器、土師器、瓦類の小片が主で、少量ながら中世の土師器、焼締陶器類も含まれており時代幅が認められた。

江戸時代から明治時代

調査区南東部に近代の浅い土取穴が連続しており、その他は近世末から近代にかけての耕作溝、土壌を多数検出している。そのうち、溝39は1区の溝1に続くもので、調査区の中央部を南北に縦断する。幅1.5～2.0で、深さは北端で約60cmで南にかけてやや浅くなり、南壁では約30cmを測る。埋土は上層が黒褐色泥土、下層は褐色の粗砂もしくは砂礫である。出土遺物は少なく、平安時代から近世末の土器、陶磁器類が含まれている。その他の溝・土壌類はいずれも耕作に伴うものである。出土遺物も近世末の陶磁器類が中心である。

4. 遺物

(1) 1区(図9・10、図版3)

古墳時代から江戸時代の遺物が出土した。全体に出土遺物が少なく、古墳時代の溝28の出土遺物の他に特筆すべきものはない。

古墳時代(図9)

溝28から須恵器の杯蓋(2・3)、土師器高杯(4)・甕(7)、不明木製品などが出土した。土師器類は概して遺存状態が悪く、復元できるものは少ないが、甕・高杯とも数個体分がある。須恵器杯蓋は6世紀前半代のものである。木製品には幅約30cm、長さ約65cmの盤状製品や、幅約15cm、長さ約150cmの板状製品のほか、自然木の破片などがある。いずれも残存状態が悪く脆弱なため、盤状製品は発泡ウレタン樹脂で固定して取り上げた(図7)。

平安時代から中世(図10)

主に湿地状遺構25から、平安時代末期から



図7 木製品取り上げ作業

表3 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
縄文時代	石器		磨製石斧 1点		
古墳時代	土師器・須恵器・木製品		土師器 4点・須恵器 2点		
平安時代	土師器・黒色土器・須恵器・灰釉陶器・輸入磁器・瓦		白磁 1点・灰釉陶器 1点		
鎌倉・室町時代	土師器・瓦器・焼締陶器				
江戸時代以降	土師器・染付磁器・施釉陶器・瓦・漆器				
計		20箱	9点 (1箱)	1箱	18箱

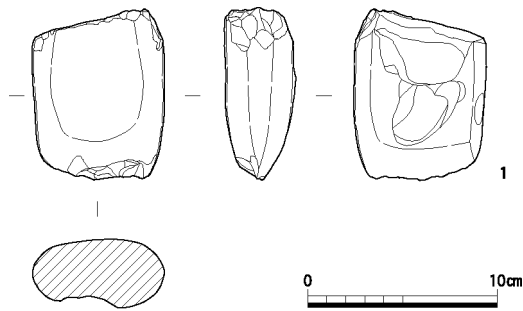


図8 石斧実測図(1:4)

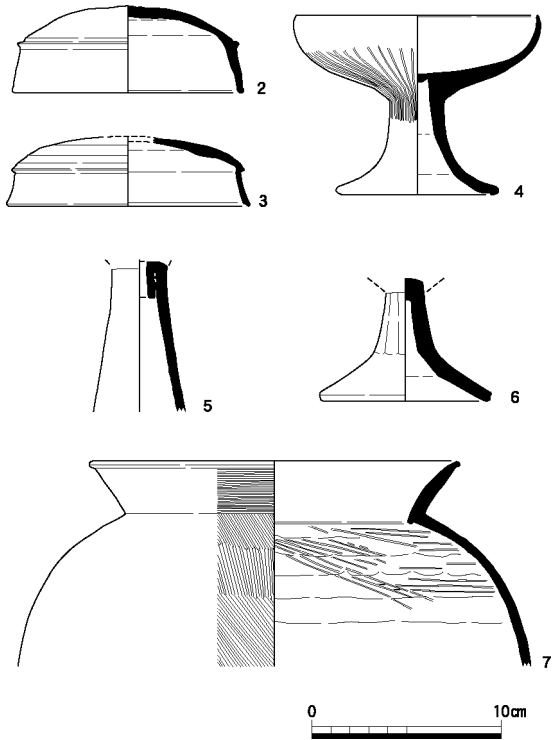


図9 1・2区古墳時代流路出土土器実測図(1:4)

鎌倉時代にかけての土師器、焼締陶器、輸入白磁の椀(8)・壺などが出土した。いずれも小片で、全体形を復元できるものはない。この湿地状遺構25からは、この他に古墳時代の土師器、平安時代前期の土師器なども出土しているが、いずれも極めて細片で二次的に混入したものである。

江戸時代から明治時代

礫を詰めた暗渠溝のなかに混じって出土した棧瓦類や、19世紀半ば以降の京・信楽系陶器、堺・明石系播鉢、丹波産の徳利などが主体である。耕土および耕作溝から出土した。

(2) 2区(図8~10、図版3)

縄文時代から江戸時代の遺物が出土した。遺物の大半は近世末から近代にかけての棧瓦類が中心である。

縄文時代(図8)

耕土中より、磨製石斧片(1)が出土した。

古墳時代(図9)

溝51・52、土壙56などから、須恵器壺、土師器甕、高杯(5・6)などが出土した。土壙56からは、土師器甕が細片の状態でも出土したが復元できなかった。

平安時代から中世（図10）

主に湿地状遺構40から出土した。土師器皿、黒色土器、須恵器、灰釉陶器皿（9）、瓦などである。

江戸時代から明治時代

溝39、杭列32、その他の耕作溝、近代の土取穴などから出土した。遺物の大半は杭列32、および土取穴から出土した棧瓦類である。そのほかには京・信楽系の鉄釉鍋類・灯明皿、肥前染付磁器などがある。いずれも19世紀半ば以降のものである。

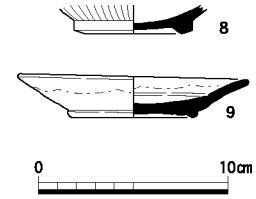


図10 1・2区湿地状遺構出土土器実測図（1：4）

5.まとめ

調査区は平安京右京三条四坊十三町にあたり、東側は無差小路に隣接している。三条大路北側溝と平安時代前期の建物跡を検出した既調査（8次調査区）と同じ十三町内であることから、平安時代の遺構の検出を期待したが、調査の結果は、平安時代後期には1区・2区とも調査区の西側に広く湿地が形成されており、居住空間に適した地域ではなかったことを確認した。また、調査区が耕作地になるのは江戸時代末期に、用・排水路の機能を持つ溝1（2区では溝39）が設けられて後と推定し、中世から江戸時代を通して湿地であった可能性が高いと思われる。このことは中世から江戸時代前中期を通して遺構は勿論、遺物もほとんど検出されていないことから裏付けられる。

そのなかで注目する遺構は、古墳時代のものである。溝・土壌などの検出にとどまり、住居跡など具体的なものではないが、調査区周辺では平安京以前の遺跡として周知されている山ノ内遺跡や西ノ京遺跡などもあり、広く集落跡などが展開することが裏付けられた。

註

- 1) 伊藤 潔・近藤章子『平安京右京三条四坊十四町・四条四坊十六町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2002-3（財）京都市埋蔵文化財研究所 2003年
- 2) 伊藤 潔・近藤章子『平安京右京三条四坊十三・十四町、四条四坊十五・十六町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2001-11（財）京都市埋蔵文化財研究所 2003年
- 3) 伊藤 潔・近藤章子『平安京右京四条四坊十五・十六町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2002-4（財）京都市埋蔵文化財研究所 2003年

圖 版

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょううきょうさんじょうしぼうじゅうさんちょうあと							
書名	平安京右京三条四坊十三町跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報							
シリーズ番号	2003-15							
編著者名	能芝 勉・モンペテイ恭代							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2004年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょううきょう 平安京右京 さんじょうしぼう 三条四坊 じゅうさんちょうあと 十三町跡	きょうとうしきょうく 京都市右京区 やまのうちにしはったん 山ノ内西八反 だちょう 田町	26100		35度 00分 21秒	135度 43分 21秒	2003年10月 6日～2004 年1月21日	約900m ²	道路改築 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
平安京右京 三条四坊 十三町跡	都城跡	縄文時代			石斧			
		古墳時代	自然流路、溝、土 壙		土師器、須恵器、木製 品			
		平安時代～ 中世	湿地状遺構		土師器、黒色土器、須 恵器、灰釉陶器、輸入 陶磁器、瓦器、焼締陶 器、瓦類			
		江戸時代～ 明治時代	溝、土壙		土師器、染付磁器、施 釉陶器、瓦類、漆器			

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2003-15

平安京右京三条四坊十三町跡

発行日 2004年3月31日

編集
発行 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 075-256-0961